

特定非営利活動法人地球と未来の環境基金

令和2年度事業報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

◆事業の成果

本年度実施した事業は下記の通りである。

(1) 国内森林保全事業

- ・ 岩手 西和賀町での植樹地メンテナンス事業 P2
- ・ 千葉 君津市、木更津市での植樹地メンテナンス事業 P3
- ・ 埼玉 飯能市での森林整備事業 P4
- ・ 静岡 川根本町での森林整備事業 P5
- ・ 奈良 PAL植樹地整備事業 P6
- ・ 広島 竹原市での植樹メンテナンス事業 P7
- ・ 間伐材利用促進事業(結糸プロジェクト) P8

(2) 海外環境保護事業

- ・ ブラジルでの河岸林保全事業 P9

(3) バガス(非木材紙)普及事業

- ・ バガス普及啓発事業(大学学園祭へのモールド導入) P10

(4) 環境助成金プログラム支援事業

- ・ 環境NGOの組織基盤強化助成事業(Panasonic NPOサポート ファンド) P11
- ・ 失業者を救う自伐型林業参入支援事業(休眠預金等活用事業) P12
- ・ 地域の森林を守り育てる生業創出支援事業(休眠預金等活用事業) P13
- ・ 分散型電源導入事業(経済産業省 資源エネルギー庁) P14
- ・ 廃炉・汚染水対策事業(経済産業省 資源エネルギー庁) P15
- ・ 原子力技術関係補助金管理事業 P16

◆2020年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧 P17

1) 国内森林保全事業

【岩手 西和賀町での植樹地メンテナンス事業】

7 月 28 日（木）～8 月 1 日（土）、岩手県和賀郡西和賀町にあるザ・バックフォレスト活動第 1 号地において、高橋理事と地元の「西和賀森づくり隊」のメンバーを中心に、植樹地の下刈りを行なった。コロナ対策として、草刈りエリアを区分け（道路部分、左側手前及び奥、右側手前及び奥の 5 箇所）し、作業日時もずらして実施した。

生育は大変良好で、コナラ 8m、ケヤキ 6m、ブナは 2m と、20 年が経って大木へと育ちつつある。積雪面より枝の方が高く成長したため、雪で折れたり潰れたりすることはないと思われ、今後は一年に一度枝打ちや、密なところは間引きをしていく作業に切り替えることにする。

50～100 年後、今は最も貧弱なブナがナラやケヤキを駆逐して一面のブナ林になったことを夢に見ながら、今後も西和賀町の地元の方々と交流、いっしょに植樹地の整備、維持に努めていきたい。



生育は大変良好



いのししが掘り返したユリの根



下天広さんが植えた苗木

【千葉県君津市「四季彩(しきさい)の森」&「豊果(ゆたか)の森」の育林活動】

君津市の植樹地「四季彩(しきさい)の森」(2007～2009)と「豊果(ゆたか)の森」(2008)は、植栽後から丁寧に育林を続けて 10 年以上が経ち、いずれの苗木も強く大きく成長している。2020 年度は、高橋理事と古瀬理事、他 1 名の手で、苗木の生育を妨げる厄介なアブラギリの伐採などに取り組んだ。

◆君津市「四季彩(しきさい)の森」＜10 月 31 日＞

植栽した森の頂上に登るための迂回路を中心に整備した。道にはみ出ている枝を払い、道を塞ぐ倒木はバッテリー式チェーンソーで伐り、取り除いた。生長の早いアブラギリが日光を防がないように 20 本ほど伐採した。

2008 年に植えた苗木は樹種によって生長の度合いが異なるが、ケヤキ、カツラ、ナラは幹周り 30cm 以上にまで育っている。トチ、ヤマモミジはそれらに比べてまだ小さいがすっかり根付いている。モミジの赤、カツラの黄色と、11 月上旬には色づいてくると思われる。次年度は、奥と上の方にアブラギリの大木が茂っているので伐採したい。

◆君津市「豊果(ゆたか)の森」＜10 月 31 日、11 月 1 日＞

豊果の森では斜面部分のアブラギリを伐採した。また、枝が密集して風通しが悪いモノは剪定した。今後は定期草刈りと剪定、施肥をしながら実がなるように管理していく。

【千葉県木更津市「皆登里(みどり)の森」の育林活動】

同地は、最後の植栽活動(2015 年 3 月補植)が終了して、6 年が経過している。以降、毎年夏から秋にかけて下草刈りと苗木のメンテナンス活動を続けてきている。

◆木更津市「皆登里(みどり)の森」＜6 月 30 日＞

参加者は EFF2 名(高橋、美濃部)と他 4 名。看板手前部分(平坦部)から刈り始め、斜面(植林部分)は左から右方向に進んだ。午後は、平地部の草刈り班と植林木の手入れ(植林木近くの竹やアブラギリを伐採して陽を当てる作業)の班に分かれて作業を進めた。

植栽 1, 2 年目の区画(斜面上部)は、長く下草刈りをしてこなかったため灌木が生い茂り進入困難になっているが、ところどころに大きくなった植林木が見える。後期植林地(斜面下部から右奥方向)は、下草刈りをしているため植林木を確認できる。右奥は圧倒的に生長の早い竹やアブラギリが繁茂し始めている。

植林木を生育させていくためには、丈の低い箇所(斜面下部左側)は草刈り、右奥は草刈りと竹やアブラギリの伐採が必要と思われる。また、一般ボランティアの受け入れのためには、登山道の補修も必要になる。



【埼玉 飯能市での森林整備事業】

埼玉県飯能市での森林保全活動は、9 年目を迎えた今年、思いもよらない形で終結することとなった。8 月下旬、地元でお世話になっている吾野原木センターの鴨下社長から「整備活動が続けている山の地主から連絡があり、山を買いたいという人が出て、地主は売りたい意向だ」と伝えられた。整備をしている場所は急斜面で、買い主はその場所をモトクロスの練習場に使いたいということだった。我々の森林整備活動は全国いずれも同じだが、国有地であれ民有地であれ、立木権は設置しておらず、地主の所有権についても一切の制限や留保条件などは付けていない。山を売りたいと言われれば、なす術がないのが実情だ。鴨下社長からは EFF で買い取ってはどうかとも言われたが、団体の財政状態からとうてい現実的ではない。山主が変われば、当然ながら許諾なく山に立ち入ることは違法行為に当たる。これまで植樹や下刈り整備などに協賛、協力していただいた企業やボランティアの方の思いを考えると忸怩たる思いであるが、予定していた 8 月下旬の下刈り整備活動（概要下記）をもって埼玉での活動は終結となった。

◆下刈り活動

活動日： 2020 年 8 月 29 日（土）10 時～14 時
活動場所： 埼玉県飯能市白子の植樹地
参加者： EFF 1 名（高橋）、セミプロ 3 名（神岡、作本、渋谷、寺井）

現地でバックフォー運搬中の吾野原木センターの鴨下社長に出会った。残りの立木を伐採する準備をしている様子であった。

現地作業は、頂上に向かって左側 3、4 年目サイトの下から 3 人が刈払いをスタート。2 人は斜面の上まで登り上下から機械での刈払いを実施した。灼熱下で急斜面のため短時間やっただけで息が切れ目眩がしてくるため、セミプロとはいえ 30 分毎に水分補給したが、下刈りができたのは斜面下半分位であった。当日のケガや蜂被害はなく、無事終了した。

結果的には整備した植樹地は、モトクロス練習場になるのであれば、また立木は全て伐られ、剥き出しの斜面にされてしまうのであろう。私権は制限できないとはいえ、なんともやるせない気持ちだ。



（写真左）鬱蒼と雑草が生い茂る植樹地、棘のある灌木が多く、下刈りも苦勞する。



（写真右）刈払い機で雑草を借り払う活動メンバー。

【静岡 川根本町での森林整備事業】

◆ 大井川の水源涵養能の向上を目指した森林整備活動

2019 年は中外製薬㈱の協賛を得て、大井川の水源涵養能と強い保土力の向上を目的に、地元 NPO のかわね来風との共催で間伐体験イベント「川根 GREEN PARTY(間伐編)」を実施した(中外製薬㈱の藤枝工場の社員と家族 29 名が参加)。今年度も同社の協賛を得て同様のイベントを計画していたが、残念ながら新型コロナウイルスの影響のため、野外であっても数十人規模の参加者が集まる活動は中止とすることを決定した。

けれども、大井川流域の川根本町内でなんらかの活動を実施したいという同社の熱い希望により、11 月 16-17 日に川根本町 1 号植樹地(上長尾/2013 年 3 月植栽)の下草刈りおよび灌木の除去活動に取り組んだ。EFF から 1 名、中外製薬㈱から社員 2 名、地元 NPO のかわね来風から 2 名の計 5 名という少数で、しかも灌木(竹や茶ノ木)が著しく繁茂した場所だったが 2 日がかかりきれいに整備することができた。ところどころで枯死してしまっている苗木もあるが、全体的には概ね順調に生育している。中外製薬㈱からは引き続き協賛いただけるとのことで、今後の取り組みでは補植を検討しつつ、丁寧な育林に努めて行きたい。

また、川根本町 2 号植樹地(田野口/2014 年 3 月植栽)の下草刈りは、かわね来風に委託して実施した。本活動も中外製薬㈱の協賛支援を受けている。このような地味な活動にも協賛いただける中外製薬㈱に深く感謝する。



◆ 木工ワークショップ「木にふれて森の声を聞こう！間伐材でつくるオーナメント&バードコール」

また、間伐体験イベントが中止になった代わりに開催する、川根本町の間伐材を利用した木工ワークショップ「木にふれて森の声を聞こう！間伐材でつくるオーナメント&バードコール」に協力した。

◇日時：2020 年 12 月 20 日(日) ①10:00-11:30 ②14:00-15:30 ◇場所：3331 Arts Chiyoda
◇主催：アーツ千代田 3331 ◇協賛：中外製薬㈱ ◇協力：NPO 法人地球と未来の環境基金



【PAL 植樹地整備事業】

◆ 世界(文化)遺産吉野の山の森林保全事業

2010 年 11 月より、株式会社パル、町内の山林所有者北岡本店、吉野中央森林組合、ザ・パック株式会社と 5 者協定「世界(文化)遺産吉野の山の森林保全と育成を目的とした「PAL／フォレスト植林」」を結び、生物多様性の森への保護と育成を目指して、緑の保全活動と植林事業を展開している。

例年、(株)パルとザ・パック(株)より計 30 数名程度の社員ボランティア参加のもと、植栽地のメンテナンス(下草刈り、枯れた苗木の植え替え、鹿の食害防除ネット(サブリガード)の補修など)に取り組んでいるが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に配慮して、ボランティアを受け入れて実施する奈良県吉野町の活動(間伐体験イベント「元気森・MORI in 吉野山」を含む)は見送りとなった。その代わり、本事業の地元パートナーである吉野中央森林組合に作業委託し、本植栽地のメンテナンスを実施している。また、吉野中央森林組合のメンテナンス作業が終わった後に、EFF2 名(古瀬・美濃部)が本植樹地の状況を視察した。

● 植樹地の視察について

実施日：2020 年 11 月 6 日(金)

視察者：古瀬繁範(理事長)、美濃部真光(理事)

植樹地の状況：植樹地全体的に良好に生育している様子

● 植樹地について

場所：奈良県吉野町千股(平成 23 年～26 年の間に広葉樹植栽施業の森林)

植栽実施年度と植栽した苗木：

平成 23 年(2011 年)... アンズ／20、スモモ／20、ヤマモモ／20、カリン／20、クワ／10、ナツグミ／10

平成 24 年(2012 年)... ヤマモモ／30、アンズ／30、イロハモミジ／20、ソメイヨシノ／20、ソメイヨシノ／1

平成 25 年(2013 年)... アンズ／30、ヤマボウシ／30、ヤマザクラ／20、イロハカエデ／20

平成 26 年(2014 年)... サンシュ／15、ソメイヨシノ／15、ヤマボウシ／10

● 地元森林組合にて実施している植樹地の保全作業について

実施日：2020 年 8 月、10 月

作業内容：植樹地全体および苗木周辺の下草刈り、倒れた苗木のメンテナンス



道路を隔てて上側の植樹地の斜面中腹

【広島 竹原市での植樹地メンテナンス事業】

竹原市のフォレスト活動は、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に対応し、一般ボランティアおよびザ・パック社員ボランティアその他協賛企業社員の参加によるイベントは全て中止となった。2020 年 3 月に「平成 30 年 7 月豪雨」によって土砂が流出、斜面の崩落などが発生したバンブー公園付近の山林での植樹を実施し（注）、その苗木の成長を阻害しないよう下刈りは必要なため、尾三地方森林組合に委託し、実施した。

当初は「平成 30 年 7 月豪雨」によって土砂が流出した場所で、3 月に植樹活動を計画し、国土緑化推進機構（緑の募金）からの助成も採択されていたが、2021 年 1 月に緊急事態宣言が再発令され、その時点で竹原市では感染者がまだゼロであったことなどから、広島市など感染者が多発している地域から人が集うイベントを開催できる合意はとうてい得られず、止む無く中止の判断に至った。

（注）2020 年 2 月 27 日に政府から大規模イベントの自粛要請が出されたことから一般ボランティア参加での植樹イベントは中止とし、植樹場所の地植えや苗木の調達には既に終わっていたこともあり、苗木は尾三地方森林組合に委託して植え付けを行なった。



（写真上）「平成 30 年 7 月豪雨」の被害地で土砂流出が起きた場所（2020 年 3 月植樹前）

（写真下 2 枚）2020 年 8 月、植樹後半年が経過した苗木。森林組合に委託し、下刈り実施後の様子。

【間伐材利用促進事業（結糸プロジェクト）】

奈良県吉野町の間伐材を原料で製造した「結糸」(YOUITO)は、既存の販売先等へ在庫商品を販売して行くことに限定して対応した。

ブックカバー、ペンケース、ご祝儀袋の3商品については、日本橋にある奈良県のアンテナショップ「まほろば館」、フェアトレード商品やオーガニック食品など扱う通販サイト SoooooS(運営会社: <https://soooooos.com/>)で販売を継続して来たが、このうち「まほろば館」は、コロナ禍の影響から来店者も減少、商品の動きも悪いことなどから、結糸商品の扱いが8月末をもって終了となった。

生協等へ生活雑貨を販売している「生活アートクラブ」での結糸生地を使った製品の開発は、コロナ禍の影響でスケジュールはだいぶ遅れたが、2020年3月から生協ルートでのランチョンマットの販売が決まり、2020年1月に約150mの生成生地を出荷した。この他、オーガニックコットンの帽子を企画、製造している株式会社キャナルからも、製品開発の打診を受け、生地サンプルを送っており、2021年春夏企画で動きがありそうだ。

期末時点での棚卸商品額は以下の通りとなっている。

■商品: 502,019 円

■生地: 297,832 円 計 799,851 円

引き続き在庫の現金化に努めて行く。



（左上）生協で販売中のランチョンマット

（右上、下2つ）販売継続中の3アイテム：ブックカバー、ご祝儀袋、ペンケース

（2）海外環境保護事業

【ブラジルでの河岸林保全事業】

日本のマスコミ等でも報じられているように、ブラジルは新型コロナウイルス感染拡大の深刻な状況が続いており、カウンターパート NGO「アマゾン森林友の協会（ASFLORA）」が事務所を置いている学校の休校や日本より厳しい外出制限などもあり、色々な側面で活動が思うように行かないことを ASFLORA の佐藤代表から報告を受けている。日本から現地に訪問することもできない中、国土緑化推進機構（緑の募金）の助成が得られた水源涵養林保全活動は、ASFLORA スタッフの尽力で進捗している。

過去にもアグロフォレストリー導入を支援して来たスペジット・リベイロ入植地の水源地周辺には、土壌の流出や過度な焼き畑で土壌が回復していない場所があり、今年度はそうした場所で水源涵養林の造成を行った。本活動では、苗木を作る段階から ASFLORA が事務所を置く州立 JK 農工専門学校の生徒など実習生 10～20 名を受け入れ、人材育成にも寄与する形で進められた。概要は以下の通りである。

2020 年 9 月～ JK 農工専門学校内で苗畑造成（植樹で使う苗木を育成）

10 月 3 日間のアグロフォレストリー講習会（座学＆フィールドワーク）実施
植樹予定地の地植えをエスペジットリベイロ入植地の住民と協働で実施

12 月 植樹活動実施（在来種 67 種/約 2,590 本、植付面積約 1,000 m²）
参加者住民ボランティア含め 120 名

2021 年 2 月 12 月の植樹活動で残った苗木を植付、植樹完了



（写真左）植樹活動の準備作業にも JK 農工専門学校の生徒が参加してくれた。



（写真右）ASFLORA のスタッフと JK 農工専門学校の実習生たち。



（写真左）12月の植樹活動に参加したコミュニティの子どもたちへ、植付の説明をするASFLORAのボランティアスタッフ。



（写真右）地域住民皆で自らの水源林を育成する植樹活動で、皆さん熱心に植付作業を行っている。

（3）バガス（非木材紙）普及事業

【大学の学園祭へのバガスモールド（エコ容器）導入】

2009年より、エコ学園祭を推進する商材としてバガスモールドの導入を働きかける活動を展開している。砂糖きびの搾りかす（バガス）を原料にしたバガスモールドは、未利用資源を活用、木材資源の消費低減から森林保全に寄与するとともに、焼却処理しても有害物質を発生させず、土中で容易に自然分解できるという優れた特徴を持つことから、約20年前から大学生の学内環境活動の一つとして注目されてきた。

一方、大学生の環境活動（環境サークル）には、20年以上の歴史のある団体、50人以上のメンバーを有する団体、歴史は浅いが最近のSDGsブームをきっかけに設立された団体など様々だが、それらはいずれも一様に、学生の絶対数が確実に減っている今、先代から引き継いだ事業をいかに承継していくべきかで頭を悩ませている。打開策を見出せないままで新入生が加入しない団体は自然と淘汰されていく。そのような状況ゆえ、学生環境団体の事業開発や承継の相談に乗るなどしてきたが、学生の環境活動低迷の流れは止められそうもない。そこに、新型コロナウイルスが猛威を振るい、少ないながらも今年度も数件の受注を期待していた大学祭の注文は、結局1件も得ることができなかった。

このような苦しい状況はしばらく続くと予想される。大学祭は今後も大きなモールド需要先であることには違いないが、大学祭以外の販路を開拓する必要があると考え、今年度はバガスモールド販促ムービーの制作に取り組んだ。現在、β版が完成しており、適切なタイミングでEFFのウェブサイトに掲載、またSNSを利用して拡散し、社会が正常化してオフラインのイベント等を開催できる日常に戻った時に「ワンウェイにするならバガスモールドを選ぼう」と社会に根付かせるために働きかけていきたい。

（バガスモールド販促ムービー）



（4）環境助成金プログラム支援事業

【環境NGOの組織基盤強化助成事業（Panasonic NPOサポート ファンド）】

パナソニック㈱との協働で実施している、NPO/NGO の組織基盤強化を支援する助成プログラム『Panasonic NPOサポート ファンド』（助成テーマ：「客観的な視点を取り入れた組織基盤の強化」）は、新規の公募は 2017 年度で終了している。今年度は2019年募集継続助成の2団体に対して、助成事務局として伴走支援に取り組み、各団体の持続的成長と発展をサポートした。

助成事業期間中（2020 年 1～12 月）、各団体から四半期毎に助成事業の進捗について報告を受け、また、7 月上旬に中間ヒアリングを実施し（ZOOM によるオンライン）、事業を進めるうえでの問題点や下半期へ向けた計画変更などを協議した。2021 年 2 月 18 日には、環境分野の助成先 2 団体と、子ども分野およびアフリカ分野の助成先と合同の成果報告会（ZOOM によるオンライン）を開催し、事業成果の発表と共有を行い、今後の活動に対して選考委員や参加者から意見やアドバイスをいただいた。

<Panasonic NPOサポート ファンド 2019 年募集事業（継続） 助成先>

助成団体	所在地	代表者 （役職）	助成額 （万円）
【組織基盤強化事業】（継続 3 年目）			
（特活）持続可能な環境共生林業を実現する自伐型林業推進協会 「日本の森林を守る自伐型林業者の全国定着に向けた 情報発信・人材育成・経営環境基盤強化事業」	東京都	中嶋健造 （代表理事）	200
（認定）自然環境復元協会 「レンジャーズプロジェクトを起点とした組織の基盤強化」	東京都	石川晶生 （理事長）	150
助成総額（2 団体）			350

【失業者を救う自伐型林業参入支援事業(休眠預金等活用事業)】

2020 年度の休眠預金等活用事業の資金分配団体に、(特非)自伐型林業推進協会とコンソーシアムを組み応募(幹事団体を当団体が担う)し、採択を受けて実施運営する事業である。助成事業のテーマを「失業者を救う自伐型林業参入支援」とし、新型コロナウイルスの感染拡大で失業や生活困窮に遭い、新たな仕事として林業就業を希望する人を対象に、経済的・環境的に持続可能で災害に強い森づくり・森林経営手法として注目を浴びている「自伐型林業」の技術研修・経営指導や、地域の持続的な林業を継続するための森林資源の活用システム構築を支援する。

助成事業の概要は以下の通り。

＜助成事業の概要＞

- 【対象となる地域】 日本国内の全域
- 【対象団体】 自伐型林業を実践する民間公益活動を行う団体(複数団体によるコンソーシアム可)
- 【助成期間】 1 年間(2020～2021 年度)
- 【助成額】 1 実行団体当たりの助成上限額は 1,000 万円/年
※ 助成総額は 5,000 万円を目途とする
- 【公募期間】 2020 年 8 月 24 日(月)～9 月 11 日(金) ※消印有効

応募は、岩手県 1 件、群馬県 1 件、山梨県 1 件、福井県 1 件、長野県 1 件、静岡県 2 件、京都府 1 件、高知県 1 件、大分県 1 件の計 10 件で応募総額は 99,019,440 円だった。外部有識者 3 名で構成される選考委員会で厳正かつ公正な審議の末、全 5 団体を実行団体として内定し、事務局で事業計画及び資金計画を精査した後、最終的に同 5 団体に対して総額 49,978,580 円の助成を決定した。11～12 月には各実行団体と覚書を締結し、それぞれの助成事業をスタート、また前期分の助成金を支払った。その後は、各団体から適宜事業の進捗状況の報告を受け、円滑に事業が進行するようにコンソーシアムを組んでいる自伐型林業推進協会と連携し、適切なアドバイスを提供したり、事業計画変更の要望に対応したりするなどの伴走支援に取り組んでいる。

No.	実行団体名称	所在地	助成金額	申請事業名称
(1)	一般社団法人東北・広域森林 マネジメント機構	岩手県	10,000,000 円	東北の森林を活かした生業創出支援事業 ～ 東北におけるウィズフォレストモデル～
(2)	特定非営利活動法人奥利根 水源地域ネットワーク	群馬県	9,978,580 円	自伐型林業で 6 次産業化プロジェクト
(3)	天竜小さな林業春野研究組 合	静岡県	10,000,000 円	小規模持続型林業による地域の仕事創出事業 ～地域の未来 山づくり、道づくり、人づくり
(4)	一般社団法人ふくい美山きと きとき隊	福井県	10,000,000 円	森から学ぶ自立に向けた技術習得プログラム ～きっと見つかる私の未来♪森プロジェクト♪
(5)	九州地区自伐型林業連絡会	大分県	10,000,000 円	九州で暮らし環境を守る林業塾 ～九州林業塾
助成総額			49,978,580 円	

【地域の森林を守り育てる生業創出支援事業（休眠預金等活用事業）】

当団体では 2020 年度の休眠預金等活用事業の資金分配団体に、幹事団体は当団体が担い、（特非）自伐型林業推進協会及びランドブレイン㈱とコンソーシアムを組んで応募、先行して採択されたコロナ枠に加えて、本件の通常枠でも採択された。事業のテーマは「地域の森林を守り育てる生業創出」で、少子高齢化、人口減少が進行することにより、活力が失われている中山間地域において、その面積の約8割を占める森林資源に着目し、持続可能な森林施業を可能にする「自伐型林業」の手法等を活用し、地域に住み続けられる半林半Xの生業づくり創出を支援しようとするものである。

助成事業の概要は以下の通り。

＜助成事業の概要＞

【対象となる地域】	日本国内の全域
【対象団体】	持続可能な森林資源活用に関心を持ち、中山間地域での生業づくりを実践可能な団体（地域おこし協力隊、地域商社、環境系 NPO 等）
【助成期間】	3 年（2021～2023 年度）
【助成額】	1 実行団体当たりの助成上限額は 700 万円（3 年間） ※ 助成総額は 3,500 万円を目途とする
【公募期間】	2020 年 12 月 26 日（土）～2021 年 1 月 25 日（月）※必着

2020 年 11 月の公募以降、年度末までの進捗概要は以下のようになっている。

- 公募説明会： 第 1 回・・・1 月 12 日（火）14:00～
第 2 回・・・1 月 19 日（火）18:00～
※ いずれもオンラインにより開催、延べ 39 団体の参加があり、本事業への関心の高さ、社会からのニーズの高さを感じた。
- 一次審査（書類選考）： 2 月 1 日（月）10:00～
※ 16 団体から応募があり、コンソーシアム団体による一次審査を実施し、外部審査委員の審査委員会（二次審査）へ進める 7 団体を選定した。
- ロジックモデル研修： 2 月 8 日（月）14:00～18:00
※ 休眠預金等活用事業では、事業成果を高めるため、実行団体の事業計画ではロジックモデルに基づいた策定が求められることから、二次審査に残った 7 団体向けにオンラインによるロジックモデル研修を実施した。
- 二次審査（面接審査）： 3 月 8 日（月）、9 日（火）
※ 3 名の外部審査委員で構成される審査委員会を開催、各団体からのプレゼンテーション、質疑応答など経て、5 団体が実行団体として内定し、各団体と採択条件などの調整を進めている。

【分散型電源導入促進事業費補助金】

当法人では、平成 25 年 5 月より、省エネルギーや電力需給の安定化を目的とした「分散型電源導入促進事業費補助金」の基金設置法人として、天然ガスコージェネレーション、自家用発電設備（コージェネレーションシステムにおける発電設備を含む）の導入や燃料費に対して補助金を交付する事業を実施している。

本事業は、ガスコージェネレーション推進事業と自家発電設備導入促進事業に区分され、両者とも補助金の交付は終了している。令和 2 年度は引き続き後年度事務期間として、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分に伴う補助金の返還、基金への繰戻しなどの対応を行なったが、今期は財産処分等による補助金の返還は発生していない。

平成 27 年 5 月に交付決定の取消を行ない、補助金（5 億円）の返還を求めているテクノ・ラボ㈱の事案については、当時の同社の実質経営者であった岡登和得氏への刑事裁判が平成 30 年 8 月 28 日に最高裁で有罪判決が確定、これを受け平成 30 年 12 月 25 日、テクノ・ラボ㈱に対しての 5 億円の補助金返還等に伴う民事訴訟を提訴した。これについては、令和 2 年 3 月 13 日東京地方裁判所において、当方の主張が概ね認められる判決を得た。

今年度は、本事案を委任している顧問弁護士石井邦尚氏、事務局を委託していたみずほ情報総研㈱と協力し、強制執行手続きを進めた。強制執行の状況については、テクノ・ラボ社所有名義の不動産は調査した限りなく、預金口座も数万円が残っていた額を執行できたのみである。動産として茨城県神栖市に設置されている発電機（26 台）については、設置から 5 年余りが経過しており、操作パネルのカギがないことから、動作確認ができないため、競売先を探すも名乗りを上げる会社は見つかっていない。

「分散型電源導入促進事業費補助金」に関する基金については、令和 3 年 3 月末日をもって解散となり、翌年度、残余財産の国庫返納をもって全ての業務が終了する。

【財産処分の状況】

ガスコージェネレーション推進事業（事務局：（一社）都市ガス振興センター）

- 財産処分の報告があった件数： 0 件
- 財産処分に伴う補助金の返納額： 0 円

自家発電設備導入促進事業（事務局：みずほ情報総研㈱）

- 財産処分の報告があった件数： 0 件
- 財産処分に伴う補助金の返納額： 0 円

【廃炉・汚染水対策事業費補助金】

当法人では、平成 26 年 2 月より、我が国の科学技術の水準の向上及び廃炉・汚染水対策を円滑に進めることを目的とした「廃炉・汚染水対策事業費補助金」の基金設置法人として、廃炉・汚染水対策に資する技術の開発を支援する事業に対して補助金を交付する事業を実施している。

本補助金の交付規程では、補助事業の完了した日の属する補助事業者の会計年度の終了後 5 年間、補助事業者の毎会計年度終了後 90 日以内に補助事業に係る収益状況について収益状況報告書により基金設置法人に報告しなければならないとされている。平成 27 年度末までに全ての補助事業は終了しており、当法人ではこの規程に基づいて平成 28 年度より収益状況報告書の収受、確認の業務を行なっている。

令和 2 年度は令和 3 年 3 月末までに 35 件の収益状況報告書を収受、確認し、収益が生じたと認められた事業者はなかった。

また、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分の事案が 1 件あったが、これは昨年同様の案件で補助金により取得した機器や設備を大学や東京電力廃炉資料館に無償貸与するもので、補助金の返還は伴わない事案として資源エネルギー庁への報告を行なった。

【財産処分の状況】

- 財産処分の報告があった件数： 1 件
- 財産処分に伴う補助金の返納額： 0 円

2011 年の東日本大震災の津波等の影響で発生した福島第一原子力発電所事故は、国際原子力事象評価尺度（INES）のレベル 7 に相当する未曾有の事故である。その廃炉作業は、この先 30～40 年がかかると目されている。廃炉等にも不可欠となる原子力技術分野の研究・技術開発・人材育成への補助金を継続するので、コンソーシアムを組んで事務局を担ってもらいたいとの打診を、廃炉・汚染水対策事業で一緒にした三菱総合研究所から受け、以下の補助金執行の事務局を担った。

【原子力産業基盤強化事業費補助金】

本補助金は、平成 25 年度から基金設置法人として関与して来た廃炉汚染水対策事業の周辺事業として、廃炉技術等を支える原子力産業分野の安全性や信頼性を向上させる取り組み、人材育成等に対して、当該経費の一部を補助することを目的とするものである。当団体では本補助金の執行団体として、(株)三菱総合研究所とコンソーシアムを組んで補助金の事務局を担った。

主な執行概要は以下の通りである。

（補助事業の採択件数・金額）

- 補助事業数： 8 事業
- 補助金交付実績額： 436,729 千円

【原子力の安全性向上に資する技術開発費補助金】

福島原発事故のような過酷事故下では大量の水素が発生し、水素爆破が生じた。廃炉は進行中であるが、未だ燃料デブリ回収は目途が立っておらず、過酷事故を起こさせないための対策は不可欠である。本補助金は、安全対策の高度化に関する研究及び開発を促進することを目的としており、我が国における原子力発電技術の安全水準の向上を図り、発電用施設の利用促進等を図るものである。当団体では本補助金の執行団体として、(株)三菱総合研究所とコンソーシアムを組んで補助金の事務局を担った。

主な執行概要は以下の通りである。

（補助事業の採択件数・金額）

- 補助事業数： 18 事業
- 補助金交付実績額： 415,957 千円

【社会的要請に応える革新的な原子力技術開発支援事業補助金】

社会的な要請から再生可能エネルギー導入の拡大や電力自由化など社会環境変化が進む中において、原子力の分野においても廃炉技術等を活かした革新的な技術開発を促進することが求められる。本補助金は、民間企業等が実施する安全性・経済性・機動性に優れた原子力技術の高度化に資する技術開発に要する経費に対して、当該経費の一部を補助する事業の実施に要する経費を補助することにより、社会的要請に応える原子力技術の開発を促進し、我が国の原子力の信頼回復、産業基盤の強化を図ることを目的とするものである。当団体では本補助金の執行団体として、(株)三菱総合研究所とコンソーシアムを組んで補助金の事務局を担った。

主な執行概要は以下の通りである。

（補助事業の採択件数・金額）

- 補助事業数： 12 事業
- 補助金交付実績額： 634,122 千円

2020 年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

■ 商品の売上げや、サービスによる収益の一部からのご寄附・ご支援



ザ・パックは人と自然を大切にしています

ザ・パック 株式会社

EFF が植林活動を開始した 2000 年から商品売上げの一部で国内森林保全活動を継続してご支援いただくと共に、整備活動にも参加いただいています。



株式会社 パックタケヤマ

株式会社 パックタケヤマ

商品売上げの一部で国内森林保全活動をご支援いただいています。



KAWASUI AQUARIUM

株式会社 アクア・ライブ・ネイチャー

運営する「カワスイ 川崎水族館」の収益の一部をご寄付いただきました。



* W A S A R A

株式会社 WASARA

国内・海外の環境保全活動をバガス紙器の売上げの一部でご支援頂いています。

峠の登めし本舗 おぎのや

株式会社 荻野屋

国内環境保全活動を環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。

服部製紙株式会社

国内・海外の環境保全活動に環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。



株式会社バリュープランニング

海外環境保全活動（ブラジル・アマゾンの熱帯雨林再生）に、キャンペーン期間中の売上げの一部をご寄付いただきました。

■ 各プロジェクトへのご寄付・ご協賛



すべての革新は患者さんのために

中外製薬株式会社

国内森林保全活動（静岡県川根本町）に、ご協賛・ご参加頂いています。

■ その他事業は、今年度は実施せず。